

③条件区分に実数入力を行い積算する場合の計算例

1. 「基層(車道・路肩部)・中間層(車道・路肩部)・表層(車道・路肩部)」
「基層(歩道部)・中間層(歩道部)・表層(歩道部)」
「排水性舗装・表層(車道・路肩部)」「透水性アスファルト舗装」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：表層（車道・路肩部）
- ・ 条 件 区 分：1.4m 以上 3.0m 以下、1 層当り平均仕上り厚 **70mm**、密粒度 As20
（締固め後密度 2.35t/m³）、タックコート PK-4
- ・ 標 準 単 価：1,560.5 円

→ 大阪地区の H31.4 における積算単価を算出

表 3：表層（車道・路肩部）の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H30.4)(円)	大阪(H31.4)(円)
K		1.90	—	—
K1	アスファルトフィニッシャ [ホイール型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 舗装幅 1.4~3.0m (*賃料)	1.26	14,600	14,900
K2	振動ローラ (舗装用) [搭乗・コンバインド式・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料)	0.26	3,540	3,540
K3	タイヤローラ [普通型・排出ガス対策型 (第3次基準値)] 運転質量 3~4t (*賃料)	0.24	3,250	3,310
R		14.00	—	—
R1	普通作業員	4.98	20,200	18,700
R2	特殊作業員	3.43	23,200	21,200
R3	運転手 (特殊)	3.37	22,800	21,000
R4	土木一般世話役	1.19	24,200	22,800
Z		84.10	—	—
Z1	アスファルト混合物 密粒度 A S 混合物(20) (平均仕上り厚 50mm)	81.43	505,000 ^(注) (50mm×10,100円/t)	728,000 ^(注) (70mm×10,400円/t)
Z2	アスファルト乳剤 PK-4 タックコート用	2.43	88.5	91
Z3	軽油 1.2 号 バトロール給油	0.23	110	113
Z4	—	—	—	—
S	—	—	—	—

※機械単価、労務単価、材料単価は仮想の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H31.4}) = 1,560.5$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{1.26}{100} \times \frac{14,900}{14,600} + \frac{0.26}{100} \times \frac{3,540}{3,540} + \frac{0.24}{100} \times \frac{3,310}{3,250} \right) \times \frac{1.90}{1.26 + 0.26 + 0.24} \right. \\
 & + \left(\frac{4.98}{100} \times \frac{18,700}{20,200} + \frac{3.43}{100} \times \frac{21,200}{23,200} + \frac{3.37}{100} \times \frac{21,000}{22,800} + \frac{1.19}{100} \times \frac{22,800}{24,200} \right) \times \frac{14.00}{4.98 + 3.43 + 3.37 + 1.19} \\
 & + \left(\frac{81.43}{100} \times \frac{728,000}{505,000} + \frac{2.43}{100} \times \frac{91}{88.5} + \frac{0.23}{100} \times \frac{113}{110} \right) \times \frac{84.10}{81.43 + 2.43 + 0.23} \\
 & \left. + \frac{100 - 1.90 - 14.00 - 84.10}{100} \right\} = 2,106.5236462 \dots \approx \mathbf{2,107(\text{円}/\text{m}^2)}
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

(注) アスファルト混合物の材料費(m² 当り)は、**平均仕上り厚(mm) / 1,000 × 締固め後密度(t/m³) × 材料単価(円/t) × (1+ロス率)**で算出するが、締固め後密度(t/m³)に応じた標準単価を選択するため、締固め後密度が同条件となることから、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれている。

2. 「安定処理」の場合

- ・ 施工パッケージ名称：安定処理
- ・ 条 件 区 分：バックホウ、構造物基礎、1m を超え 2m 以下、
固固化材使用量 7.00t/100m² (材料ロスを含む)
- ・ 標 準 単 価：2,164.8 円

→ 大阪地区の H31.4 における積算単価を算出

表 4：安定処理の代表規格・構成比

	規格	構成比(%)	東京(H30.4)(円)	大阪(H31.4)(円)
K		8.88	—	—
K1	バックホウ (クローラ型) [標準型・ クレーン機能付・排出ガス対策型(第2次基準値)] 山積 0.8m ³ (平積 0.6m ³) 吊能力 2.9t (*賃料)	7.67	9,840	10,500
K2	振動ローラ (舗装用) [ハンドガイド式] 質量 0.8~1.1t (*賃料)	1.21	1,560	1,650
K3	—	—	—	—
R		56.44	—	—
R1	土木一般世話役	15.15	24,200	22,800
R2	特殊作業員	14.47	23,200	21,200
R3	運転手 (特殊)	14.22	22,800	21,000
R4	普通作業員	12.60	20,200	18,700
Z		34.68	—	—
Z1	セメント系固化材 一般軟弱土用・フレコン・ 1 トンパック (5.25t/100m ²)	29.82	64,575 ^(注) (5.25t/100m ² × 12,300 円 / t)	81,900 ^(注) (7.00t/100m ² × 11,700 円 / t)
Z2	軽油 1.2 号 バトロール給油	4.86	110	113
Z3	—	—	—	—
Z4	—	—	—	—
S	—	—	—	—

※機械単価、労務単価、材料単価は仮定の単価とする。

$$P'(\text{大阪 H31.4}) = 2,164.8$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{7.67}{100} \times \frac{10,500}{9,840} + \frac{1.21}{100} \times \frac{1,650}{1,560} \right) \times \frac{8.88}{7.67 + 1.21} \right. \\
 & + \left(\frac{15.15}{100} \times \frac{22,800}{24,200} + \frac{14.47}{100} \times \frac{21,200}{23,200} + \frac{14.22}{100} \times \frac{21,000}{22,800} + \frac{12.60}{100} \times \frac{18,700}{20,200} \right) \\
 & \times \frac{56.44}{15.15 + 14.47 + 14.22 + 12.60} \\
 & + \left(\frac{29.82}{100} \times \frac{81,900}{64,575} + \frac{4.86}{100} \times \frac{113}{110} \right) \times \frac{34.68}{29.82 + 4.86} \\
 & \left. + \frac{100 - 8.88 - 56.44 - 34.68}{100} \right\} = 2,262.9770777 \dots \approx 2,263(\text{円/m}^2)
 \end{aligned}$$

※積算単価は、有効数字4桁、5桁目を降切り上げ。

(注)セメント系固化材の材料費(m² 当り)は、固固化材使用量(材料ロスを含む)(t/100m²) / 100 × 材料単価(円/t) で算出するが、計算例では簡易的に材料費を算出している。また、材料のロス分については標準単価に含まれていないため、材料のロス分を含んだ実数を入力する必要がある。